

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【仲町小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策	
知識・技能	さいたま市学習状況調査では、理科において課題がみられた。特に3年の学習内容を高学年で忘れていたことが明らかになった。来年度以降、授業を進める際には、当該学年の学習内容に関連したキーワードや既習事項などを繰り返し扱い、さらなる定着を図りたい。	
思考・判断・表現	さいたま市学習状況調査では、算数において課題がみられた。来年度以降、授業を進める際には、授業者が場面や状況を整理するのではなく、学習者自身が自らそれを行っていくことを繰り返し取り入れていく。学校課題研修でも共通理解を図り、個別最適な学びと協働的な学びのさらなる充実を目指す。	

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 算数「数と計算」 <指導上の課題> 式や答えを、具体的な場面と結び付けることがやや苦手。習得した知識・技能を、日常生活と関連付けるような授業が足りないのではないか。	⇒ 習得した知識・技能を日常生活と関連付けて考える授業を行う【週に1回以上】。 単元を見通した教材研究を行い、一人ひとりの課題に合った個別最適な学びを授業に取り入れる【月に1回以上】。
思考・判断・表現	<学習上の課題> 算数「数と計算」 <指導上の課題> 場面をとらえ、立式に必要な数量を適切に判断することがやや苦手。日常生活と関連付けて考え、判断できる授業が足りないのではないか。	⇒ 単元を見通した教材研究を行い、一人ひとりの課題に合った個別最適な学びを授業に取り入れる【月に1回以上】。 考え、判断し、友達と表現し合える協働的な学びができる場面に授業に設定する【月に1回以上】。

⑤	評価(※)	調査結果 学力向上策の実施状況
知識・技能	B	年間を通じて、習得した知識・技能を日常生活と関連付けて考える授業を意識した。また、単元を見通した教材研究を行い、一人ひとりの課題に合った個別最適な学びを学校課題研修に位置付け、授業に取り入れた。研究授業や研究協議会を通して、教職員の共通理解を図ることができた。さいたま市学習状況調査の算数「数と計算」(知識・技能)の領域もおおむねよい結果となった。
思考・判断・表現	B	年間を通じて、単元を見通した教材研究を行い、一人ひとりの課題に合った個別最適な学びを授業に取り入れた。また、考え、判断し、友達と表現し合える協働的な学びができる場面を適宜取り入れた。研究協議会でも個別最適な学びと協働的な学びの充実について議論し、授業実践に生かすことができた。さいたま市学習状況調査の算数「数と計算」(思考・判断・表現)の領域もおおむねよい結果となった。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語、算数、理科ともに良好な結果であった。算数では、数直線上に示された数を分数で書く問題で正答率はおよそ半数であった。数直線上で、例えば5/3と5/6の違いを視覚的に分かるような演習が必要であると考えられる。理科では、電気を通す物、磁石に引き付けられる物についての問題で正答率が低くなった。金属は電気を通すことが分かっていないと考えられる。	
思考・判断・表現	国語、算数、理科ともに良好な結果であった。算数では、分母が違う分数の加法について、通分をして計算をすることはできるが、それを言葉で表現することに課題があると思われる。理科では、差異や共通点から新たな問題を見だし、問題として記述することに課題がみられた。新たな問題を見出すことはできているが、疑問を示す趣旨で記述できていないと考えられる。	

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	特に課題がみられた点は、5年理科・顕微鏡の操作手順の問題で、はじめの操作手順として「反射鏡を調節して見やすい明るさにする」ところを、「はじめに観察物をステージに置く」とした誤答が85%になった。6年理科では、「モーターや乾電池を導線につなげた電気の通り道を何と云うか」答える問題で、約3分の2の児童が「回路」と解答できなかった。同様の問題で5年の約半数も誤答であった。「回路」については3年の学習内容であり、全国学力・学習状況調査の理科でも金属が電気を通すという3年の学習内容を誤った児童が約7割に上った。3年で学習した内容は、その時はよく理解していても時間と共に忘れていくことを理科の研究授業・研究協議会でも話題にし、学習指導に生かすことにした。	
思考・判断・表現	特に課題がみられた点は、6年算数・平行四辺形の作図の問題。平行四辺形になる手順(プログラム・命令)が示され、それで作図してひし形になるという誤答が19%、二等辺三角形になるという誤答が12%であった。実際に平行四辺形を書く場面はないが、辺を書く手順(プログラム・命令)が4つあるので、少なくとも四角形であるひし形が長方形を選択してしまかった。授業においては、与えられた条件を整理していくことを、学習者自身がかもって行っていく場面を設定している。	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	習得した知識・技能を日常生活と関連付けて考える授業を引き続き実施していく。また、単元を見通した教材研究を行い、一人ひとりの課題に合った個別最適な学びを授業に取り入れている。	変更なし
思考・判断・表現	B	単元を見通した教材研究を行い、一人ひとりの課題に合った個別最適な学びを授業に取り入れるとともに、考え、判断し、友達と表現し合える協働的な学びができる場面に授業に設定できるようにしている。どう設定していくか研究授業の公開を今後実施していく予定である。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)